

「一戸建て住宅に比べ近所付き合いが進みにくいマンション。住民同士が本音で付き合えるコミュニティが注目され始めた。高齢化の進展や子育ての悩みなどに直面した住民が、助け合おうと立ち上がったものだ。昔ながらの温かなや人情にあふれた現代マンションの人間模様をのぞいた。

「あのおっちゃんのお顔 網戸の張り替えや包丁メンバが駆けつけて手が見えんけど、まだ寝と 研ぎ、切れた電球の交換 伝う。代表の立石裕盛さん(63)は「様々な特技に電話してみようや」受け、シニア世代中心の

。都心部から約三十分、大阪府枚方市のマンション「労任まきのハイッ」は、今も濃密な近所付き合いが息づく。ある住民は「マンションで独り暮らしする隣人がいなくなったことに気づかない」「孤独死」は住民の恥。ここではそんなことはあり得ない」と断言する。

「コミュニティの中核が、二〇〇〇年十月設立のボランティアグループ「くらしの支援かけはし」。全四棟、三百八十戸のうち六十歳以上の世帯が半数近くを占める。住民の高齢化が進む中、家事を気安く頼める雰囲気づくりを狙い、住民約六十人が立ち上げた。

「くらしの支援かけはし」が開くバザーも人気(大阪府枚方市)



「くらしの支援かけはし」が開くバザーも人気(大阪府枚方市)

マンション住民 コミュニティで支え合い

高齢化で危機感 日常の雑事、子育て支援も

声が多かったので、感謝の気持ちとして受け取る一戸建てに比べて一般に集まり、カレーや豚汁などにした(立石さん)。低い。管理組合も機能しど手作り料理を囲んで話利用者にはシニア世帯だけでないケースも多いのがでなく、子どもを持つ若年層にも広がる。グループの効果が発揮されたのが、昨年十二月に完工した大規模修繕工事。費用負担や修理の方針を巡りもめるケースが多い大規模修繕で、管理一戸建てを超える。三十年前に委託せざるスラム前、三十歳で新築マンションに住民の合意をまとめた。「日ごろかたつき合いがあればこそ」(立石さん)と胸を張る。ティーンを生後しているようにだ。

「暮らしの支援かけはし」は、今も濃密な近所付き合いが息づく。ある住民は「マンションで独り暮らしする隣人がいなくなったことに気づかない」「孤独死」は住民の恥。ここではそんなことはあり得ない」と断言する。

「コミュニティの中核が、二〇〇〇年十月設立のボランティアグループ「くらしの支援かけはし」。全四棟、三百八十戸のうち六十歳以上の世帯が半数近くを占める。住民の高齢化が進む中、家事を気安く頼める雰囲気づくりを狙い、住民約六十人が立ち上げた。

「くらしの支援かけはし」が開くバザーも人気(大阪府枚方市)

築三十年を超えるマンションは六千五百棟、二十二年無料で引き受ける。十六棟に約三百八十世帯が入居する同団地は築三十年を超える住民の高齢化が進む。柏良江会長は「男性も巻き込み、マンに住む。二人とも外出するときに、詞音君の面顔をみるのは、他の子育て世帯の人やNPOメンバー。国枝さんは「隣の子どもを預かることもあさな子どもを抱える世帯。みんな一緒に子育てにも広がろう」としていいにしている感じ」と笑顔をみせる。

「コミュニティは、高年齢者ばかりではなく、小どもを預かることもあさな子どもを抱える世帯。みんな一緒に子育てにも広がろう」としていいにしている感じ」と笑顔をみせる。

「コミュニティは、高年齢者ばかりではなく、小どもを預かることもあさな子どもを抱える世帯。みんな一緒に子育てにも広がろう」としていいにしている感じ」と笑顔をみせる。

「コミュニティは、高年齢者ばかりではなく、小どもを預かることもあさな子どもを抱える世帯。みんな一緒に子育てにも広がろう」としていいにしている感じ」と笑顔をみせる。

生活
コミュニティ